

19世紀アメリカンボードの宣教思想Ⅱ

1851-1880 (2)

塩野和夫

第1章 アメリカンボードをめぐる状況

2 各地域における宣教活動

1812年に最初の宣教師をインド・スリランカに派遣したアメリカンボードは、その後も精力的に宣教活動地域を拡大した。すなわち、1817年にアメリカ先住民の間で活動を開始し、1819年にはハワイ諸島及び中東における宣教活動に着手した。さらに、1829年には中国、1832年には東南アジア、1833年にはアフリカでの活動を始めた。こうして、19世紀半ばにはボードの宣教地域は世界各地に広がっていた¹⁾。

この流れを受けて、19世紀中期にアメリカンボードの宣教地域はどのように推移したのか。また、各地域における宣教活動の内容はどのようなものであったのか。ここでは、19世紀中期の宣教活動地域を確認した上で、各地域における活動の内容を概観したい²⁾。

19世紀中期におけるアメリカンボードの宣教活動地域を概観するために、表を作成した。「表2 類型化による19世紀中期アメリカンボードの宣教地域」である。

表2 類型化による19世紀中期アメリカンボードの宣教諸地域

	A 独立国の地域	B アメリカに併合された地域	C ヨーロッパ諸国の植民地
1 古代文明の地域	中国, 日本		インド・スリランカ
2 無文字社会の地域		アメリカ先住民	アフリカ(ズールー族), ミクロネシア
3 古代キリスト教の地域	中東		
4 イスラム教の地域	中東		
5 カトリックの地域	スペイン オーストリア メキシコ		

各地域における宣教活動を概観しておきたい。なお地域の順序は、ボードが宣教活動に着手した年代順に従っている。

インド・スリランカ³⁾

インド・スリランカには、1851年に5地域のミッションがあった。ボンベイミッション(Bombay Mission)・アフマドナガル ミッション(Ahmednagar Mission)・マドラス ミッション(Madras Mission)・マドゥラ ミッション(Madura Mission), そして、セイロン ミッション(Ceylon Mission)である⁴⁾。地域社会とのあつれきを抱えながらも、それぞれのミッションは教育活動を中心に着実な発展を遂げていた。ところが宣教活動の発展を背景として、インド・スリランカでは1850年代に宣教活動の内容が大きく変化する。この変化の兆しは一部の現場ですでに現れていたが、それを決定づけたのはアメリカから派遣されたボード代表団であった。

ボードの書記アンダーソン(Anderson, Rufus)と運営委員の一人であったトンプソン(Thompson, A. C.)から構成された代表団は1854年11月にムンバイに到着すると、約7ヶ月間、各地を視察し関係者との会合を重ねてボードの新しい方針を伝えた。この方針は2つの提案を骨格とした。第1は、今後の教育活

動を宣教活動に直接寄与するものに限定するという提案である。そのため、広範な教育活動や高等教育への取り組みは廃止される。第2は、現地人教会の設立とその充実を宣教活動の中核とするという提案である。この提案は、現地人の「自給, 自治, 自ら宣教する教会」(a self-supporting, self-government, self-propagating church)と表現された。

ボードの新方針は現地の関係者に全面的に受け入れられたわけではない。特に高等教育など教育活動からの撤退は、現地関係者にボードに対する失望を与えたと見られる。そのため、宣教活動の後退がいくつかの地域から報告された。そのような中で、現地人教会の設立と充実を目指す活動が着手され、次第に着実な成果をあげていった。各地で現地人教会が設立され、現地人の牧師など指導者も増加した。現地人による献金額も上昇した。ボード派遣宣教師は引き続き宣教活動や神学教育に従事した。女性宣教師の働きもこの時期には重要になっている。

ミッションの統廃合も行なわれた。1861年にマハラシャトラ地方にあった3ミッション、ボンベイ ミッション・アフマドナガル ミッションとサターラ ミッション(Satara Mission)は統合して、マラーター ミッション(Mahratta Mission)となった。インド南西部の都市、アルコートに1851年に設立されたアルコート ミッション(Alcot Mission)は、1857年に、アメリカ(オランダ)改革派教会に移管された。マドゥラス ミッションはインド・スリランカ地域の印刷業務を担当していたが、1864年に閉鎖された。こうして、インド・スリランカにおけるミッション数は、1880年には3となっていた。

高等教育に関しては、地元のキリスト教関係者や他教派の宣教団体と協力して学校を設立し、運営する形態がこの時期に盛んになった。たとえば、スリランカでは、1872年に地元のキリスト教関係者と他教派の宣教団体、及びアメリカンボードが協力してジャフナ大学(Jaffna college)を設立している。

ヘラルド誌の統計表によると、1878年から79年にかけて、3ミッションにおける、「教会数・宣教師総数(女性宣教師数)・地元活動者総数(牧師と説教者数・学校教師)・会員数・公教育学校数・その生徒数」は次の通りである⁵⁾。

マラーター ミッション 「23・22 (11)・113 (18・52)・1,127・48・827」
 マドゥラ ミッション 「33・28 (16)・304 (135・154)・2,255・113・2,618」
 セイロン ミッション 「13・13 (8)・69 (24・18)・886・135・7,805」

19世紀中期にボードの新しい方針は宣教活動を地域住民による教会の自給自治を中心に展開した。この方針による宣教活動は、統計表で見ると、2つの特色となって現れている。一つは宣教地域が固定したことである。19世紀前期には各地に活動地域の拡大が見られたが、中期には初期に開拓された地域に活動が限定されている。それに対して、教会数や現地人の活動者は大きく増加している。他方、ボードが放棄したはずの公教育関係学校や従事者、及びその生徒がこの時期にも多いことを統計上の数値は示している。

アメリカ先住民⁶⁾

19世紀前期に、アメリカンボードが最も力を注いだのはアメリカ先住民の間における宣教活動であった。しかし、アメリカ合衆国政府によるチェロキー族の強制移住政策などにより、先住民の間に設けられたステーションは次々と閉鎖されていった。ボードは、それでも先住民の間における活動を継続したばかりでなく、他部族の間において宣教活動を開拓していった。1851年にボードが宣教活動を継続していたのは、ヘラルド誌によると次の通りである⁷⁾。

オレゴンインディアン (Oregon Indians)
 チョクトー族 (Choctaws)
 チェロキー族 (Cherokees)
 ダコタ族 (Dakotas)
 オジブウェ族 (Ojibwes)
 ニューヨークインディアン (New York Indians)
 アーバナーキ族 (Abenauquis)

1851年当時にアメリカ先住民の間で6ミッションが継続されていたことは、ボードが19世紀中期に向けて宣教活動の可能性を残したことを意味する。しかし、中期にもアメリカ先住民の間における状況が好転することはなかった。民族の事情により、アーバナーキ族の間における宣教活動が停止したのは1858年である。翌1859年には、奴隷制をめぐる立場の違いからアメリカンボードはチェロキー ミッションとチョクトー ミッションを閉鎖した⁸⁾。さらに1870年にオジブエ族における宣教活動をアメリカ長老派教会に移管している。このようにして、ボードが19世紀中期を通してアメリカ先住民の間で宣教活動を展開したのはダコタ族のみである。

ダコタ族に対する宣教活動はどのようなものであったのか。合衆国との協定に従い、ダコタ族は1851年からミネソタ州の西部地域よりダコタ州への移住を始めた。移住先が落ち着くと、ボードは新しい土地でステーションを開設し、宣教活動を再開した。それは従来通りの教育活動と教会活動を重視する活動であった。ところが、1862年に合衆国にたいするスー族の反乱 (the Sioux war) が起こる。ダコタ族はスー族の支族であった。そのため、スー族の敗戦と同時にダコタ族の人々は捕らえられ監視の下に置かれた。こうして、ある人々は Mankato にある刑務所に投獄され、他の者は Fort Snelling のキャンプ地に収容された。投獄されていた人たちは1863年春にアイオワ州の Davenport へ移され、キャンプ地に収用されていた人たちはミズーリ州の Crow Creek へと移送された。宣教師は刑務所や収容キャンプ地を訪ね、それぞれの場所でキリストの福音を説いた。

ダコタ族がダコタ州へと解放されると、ボードはその地域における宣教活動を再開した。活動内容はやはり教育活動と教会活動を中心とするものであった。インド・スリランカにおけるように、ボードが強力に宣教方針を変更することはなかった。それでも、ダコタ族の中から、教会の指導者や学校の教師が次第に現れた。1880年当時のダコタ族における「教会数・宣教師総数(女性宣教師)・ダコタ族の活動者総数(牧師と説教者・教師)・会員数・公教育学校数・その生徒数」は、次の通りである⁹⁾。

ダコタ族ミッション「8・19 (13)・34 (8・7)・599・4・432」

1880年の数値は、全体的に大きくはないが、教育活動と教会活動の数値がほぼ並んでいる。このことは、ダコタ族においてボードがいずれの活動も重視して取り組んでいた様子を表現していると思われる。

中東¹⁰⁾

中東の19世紀前期は政治的な不安定さに特色付けられた。そのため1819年に最初の宣教師を派遣して以来、アメリカンボードは宣教地域における活動停止や変更を余儀なくされていた。ボードはそれでも地道な活動を続け、1851年当時のミッションあるいは活動地域は次の通りであった¹¹⁾。

ヨーロッパ　ギリシャ、ユダヤ人
西アジア　アルメニア人、シリア、アッシリア、ネストリウス派

中東におけるボードの宣教活動は、19世紀中期においても前期と同様に様々な困難に遭遇しながら継続されるというものであった。このような状況から、中東におけるいくつかの顕著な特色が現れたと思われる。その一つがミッションの全面的な再編成である。その概観を見ておきたい。

ギリシャにおける活動は、その中心を担った人物の死去により1869年に中止された。それよりも早くユダヤ人に対する活動は1850年代に中止されていた。中東に属するバルカン半島では、ブルガリアやマケドニアで宣教活動が始められていた。これらの地域にコンスタンティノーブルを加えて、1858年にヨーロッパトルコミッション (European Turkey Mission) が再編成された。アルメニア人に対する宣教活動がこの時期に進展する。1850年代のオスマン帝国下における信教の自由に関する勅令の発布やアルメニア人団体との協力関係の構築などもその要因である。ミッションの再編成に関しては、アルメニア人を中核として1860年に西トルコミッション (Western Turkey Mission) ・東トルコミッシ

ン (Eastern Turkey Mission) ・中央トルコミッション (Central Turkey Mission) が編成された。シリア ミッションは、混乱の中にも堅実な宣教活動を続け、1864年にはシリア プロテスタント大学 (Syrian Protestant College) を設立した。その後1870年に、アメリカ長老派教会の宣教団体に移管している。アッシリアにおける宣教活動は、宣教師にとって、様々な危険と隣り合わせていた。1860年に東トルコミッションとして、再編成された。ネストリウス派の活動もいくつかの困難を伴う中で堅実に進められていた。1870年にこの活動もアメリカ長老派教会の宣教団体に移管している。

こうして、19世紀中期に中東におけるミッションは、バルカン半島を中心とするヨーロッパトルコミッション、コンスタンティノーブルのアルメニア人を含む西トルコミッション、かつてのアッシリアミッションを継承した東トルコミッション、そして、地中海の北東岸地帯を対象とする中央トルコミッションとなった。

中東地域における顕著な宣教活動は、各地域に他団体との協力により高等教育機関を設立したことである。これらの教育機関は、イスラム教徒に対しても開かれていた。このような教育機関として、ロバート大学 (Robert College)、シリア プロテスタント大学、アルメニア大学 (Armenia College) (後のユーフラテス大学 (Euphrates College))、中央トルコ大学 (Central Turkey College) などがある。

女子教育機関の設立や女性宣教師の活躍もこの地域で認められる。

しかし、「自給・自治・自ら宣教活動をする教会」の進展を、中東地域の教会で顕著に見ることはできない。

1880年当時の、4 ミッションの「教会数・宣教師総数 (女性宣教師数) ・地元活動者総数 (牧師と説教者数・教師数) ・会員数・公教育学校数・その生徒数」は次の通りである¹²⁾。

ヨーロッパトルコミッション「3・22 (12)・31 (11・13)・214・0・0」
西トルコミッション「28・65 (39)・143 (52・48)・1,691・109・3,858」

中央トルコミッション「27・20 (13)・92 (28・60)・2,611・63・2,420」
東トルコミッション「32・37 (22)・199 (58・117)・1,802・120・3,630」

中国¹³⁾

19世紀前半を通じて、中国では清による反キリスト教政策だけでなく、民衆レベルでのキリスト教に対する反発が強かった。そのために、アメリカンボードの宣教活動はどの地域においても停滞を余儀なくされていた。ヘラルド誌によると、1851年にボードが宣教活動を展開していたのは次の3都市であった¹⁴⁾。

広東 (Canton)、廈門 (Amoi)、福州 (Fuh-Chau)

19世紀中期にも、ボードの中国における宣教活動は政治的動向に翻弄された。1851年から14年間続いた太平天国革命は南京を始め、中国の南部地域を揺るがせた。1856年のアロー号事件のきっかけは、広東港におけるイギリス船で起こった。アロー号事件の結果、1858年に締結された天津協定でアメリカ合衆国は中国におけるキリスト教の信教と布教の自由を獲得した。しかし、これに対する民衆の反発は強く、各地で暴動、略奪、反対運動が起こった。

このような状況の中でボードは中国の北部へ活動地域を広げた。1860年に天津 (Tientsin) にステーションを設けると、1862年には北京 (Peking) に、1865年には張家口 (Kalgan) に、1867年には北京の海の玄関口である Tung-chou に、そして、1873年には保定 (Pao-ting-fu) にステーションを設置した。ボードはこれらのステーションを北中国ミッションとした。他方、中国南部では拠点が増え、縮小した。アモイにおける宣教活動は1857年にアメリカ改革派教会の宣教団体に移管した。広東ミッションも1866年にアメリカ長老派教会の宣教団体に移管した。こうして、1860年代後半以降の中国には福州ミッションと北中国ミッションが存在した。

ヘラルド誌から、当時の統計表から「教会数・宣教師総数 (女性宣教師)・現地人活動者総数 (牧師と説教者・教師)・会員数・公教育学校数・その生徒

数」を見ると、次の通りである¹⁵⁾。

福州ミッション「11・16 (9)・41 (24・9)・197・5・60」
北中国ミッション「14・31 (19)・16 (6・0)・450・2・28」

数字としてみると、低いレベルでの活動であったことが分かる。なかでも、公教育活動にわずかな生徒しか集まらなかったことは、中国の特徴である。

アフリカ¹⁶⁾

アメリカンボードがアフリカで1851年に宣教活動を展開していたのは、ガボン ミッション (Gaboon Mission, 「西アフリカミッション」とも呼ぶ) とズールー ミッション (Zulu Mission) である¹⁷⁾。

ガボン ミッションは4か所でステーションを開設していた。しかし、厳しい気候で宣教師の健康問題が生じ、生活習慣の違いから宣教活動に困難が伴い、19世紀中期にはほとんど進展を見ることができなかった。そのような中で、1870年に、ボードはアメリカ長老派教会の宣教団体にガボン ミッションを移管した。

ズールー ミッションは、1850年当時、11のステーションがあり、教会数は6、8つの学校に185人の生徒がいた。しかし、1850年代前半の宣教活動には倫理的問題などがあり、困難であった。状況が一変したのは、政府による保護地区政策にミッション活動が加えられたことであった。与えられた保護地区 (Mission Reserve) は無料で土地が貸代され、この地域で宣教活動が進展した。なかでも教育活動が盛んになり、文明のキリスト教化が進んだ。保護地区では一夫一婦制を採用する家族も増加した。1860年には地域住民による宣教団体が結成され、教会活動を積極的に担った。そのため、宣教師の活動は高等教育や女子教育に重点を移していった。

1880年から81年のズールーミッションの「教会数・宣教師総数 (女性宣教師)・現地人活動者総数 (牧師と説教者・教師)・会員数・公教育学校数・その生徒数」は次の通りである¹⁸⁾。

「15・29 (18)・185 (46・135)・646・29・974」

ミクロネシア¹⁹⁾

ハワイ諸島におけるアメリカンボードの宣教活動は1840年代にほぼ完了した。そこで、1850年代になると、現地のハワイ福音協会 (Hawaiian Evangelical Association) への移管を検討し始め、1863年に移管した。同じ頃、ミクロネシアからハワイ福音協会に宣教活動を求める要請があった。そこで、アメリカンボードも協力したミクロネシアにおける宣教活動が1852年に始まった。

ミクロネシアは西太平洋上に広範に広がり、ギルバード諸島、マーシャル諸島、カロリン諸島、マリアナ諸島などから構成されている。ハワイ福音協会とアメリカンボードから派遣された宣教師は、ギルバード諸島では Apainung、マーシャル諸島では Ebon、カロリン諸島ではクサイエ島 (Kusaie)、ポナペ島 (Ponape)、トラック諸島 (Truk) など、各地で宣教活動を展開した²⁰⁾。その内容はやはり教育活動と教会活動を中心として、印刷も行った。ややもすれば、孤独になる宣教師に対してアメリカ合衆国の日曜学校の生徒たちが寄付を集めて建造した船モーニングスター号で、1856年以降島々を巡回し、宣教師を訪ねた。

食料不足、現地人とのあつれき、健康問題、南北戦争による活動の縮小など、さまざまな問題があったが、おおむね1870年代になると安定した宣教活動を展開した。1880年当時、ミクロネシア ミッション (Micronesia Mission) の「教会数・宣教師総数 (女性宣教師)・現地の活動家 (牧師と説教者・教師)・会員数・公教育学校数・その生徒数」は次の通りである²¹⁾。

「36・14 (7)・34 (34・0)・1,918・不明・不明」

日本²²⁾

長くキリスト教に対する厳格な禁教政策を続けていた日本に関する情報を、ボードの中国派遣宣教師が早くから伝えていた。1859年になると開港地に設けられた居留地に居住した他教派の派遣宣教師が日本の近況を次々と伝えた。そ

れらを総合的に判断し、ボードが日本へ最初の宣教師を派遣したのは1869年である。

当時はまだ禁教政策が続けられていた。それでも、神戸にステーションを設置した宣教師は、日本語の学習を初めとして宣教活動に備える準備を続けていた。1873年2月に禁教政策が放棄される。この時を待ち望んでいた宣教師は、教育活動や医療活動、そして教会活動に取り組んでいった。神戸や大阪、その周辺地域には1874年以降次々と教会が設立された。アメリカ人衆派の流れを汲むこれらの教会は、やがて組合基督教会と呼ばれるようになる。1875年には京都に同志社英学校が設立され、組合教会の新しい拠点となった。

刑務所の改良運動や刑務所における宣教活動もボード派遣宣教師によって始められた。

1870年代に開始された当初のボードの宣教活動は勢いにあふれ、教会、教育、社会福祉と多方面に及ぶ可能性に満ちたものであった。ヘラルド誌は1880年当時の日本ミッション (Japan Mission) の「教会数・宣教師総数 (女性宣教師)・現地活動者 (牧師と説教者・教師)・教会員数・公教育学校・その生徒数」を、次のように報告している²³⁾。

日本ミッション 「14・48 (30)・31 (19・12)・434・0・0」

カトリックの地域²⁴⁾

アメリカンボードは1870年代に入って、カトリックが支配的ないくつかの国における宣教活動に着手している。

スペインに宣教師を派遣したのは1872年である。宣教師は慎重に活動地域を選び、宣教活動を始めた。教育活動、文書伝道活動や日曜日には礼拝を行った。しかし、これらの活動にたいして嫌がらせや迫害が起り、1881年には宣教活動の一時中断をやむなくされた。

オーストリアでも1872年に宣教師を派遣した。地域はプロテスタントになじみが深いボヘミアであった。ここでも、しかし、困難が生じたためたびたび場

所を変更した。ようやく1880年にプラハにボヘミア改革派教会 (The Free Reformed Church of Bohemia) の設立に至っている。

メキシコでは、1860年に信教の自由が保障された。そこで、1872年にメキシコの北部で活動を始めた。教育活動、教会活動を慎重に地道に続け、地元の説教者の養成が課題となっていた。

イタリアでも1873年に活動を開始した。イタリア自由教会 (The Italian Free Church) との協力関係をボードは期待した。しかし、この期待ははずれ、この地域での宣教活動は頓挫する。1874年にボードはイタリアでの宣教活動から撤退した。

ヘラルド誌によると、1880年当時、西メキシコ ミッション (Western Mexico Mission) ・スペイン ミッション (Spain Mission) ・オーストリア ミッション (Austria Mission) の「教会数・宣教師総数 (女性宣教師) ・地元活動者総数 (牧師と説教者数・教師) ・会員数・公教育学校数・その生徒数」は次の通りである²⁵⁾。

西メキシコ ミッション 「1・6 (3) ・6 (0) ・135・0・0」

スペイン ミッション 「3・4 (2) ・10 (3・5) ・176・3・114」

オーストリア ミッション 「8・6 (3) ・8 (5・0) ・不明・0・0」

カトリックが支配的な地域におけるこれらの統計値は、宣教活動へのわずかな足がかりだけが得られていた状況を示していると思われる。

19世紀中期アメリカンボードの宣教活動をめぐって

19世紀アメリカンボードの宣教活動を、地域ごとに概観した。すなわち、19世紀前期から継続した地域として、「インド・スリランカ」「アメリカ先住民」「中東」「中国」「アフリカ (ズールー族)」を概観し、19世紀中期に始められた地域として「マイクロネシア」「日本」「カトリックの地域」(ここではカトリッ

クの地域は1地域として扱う) を概観した。

前期から継続した5地域はボードの新方針に対応できたかどうかで明確に区分できる。対応できた、あるいはある程度はできた地域として、「インド・スリランカ」「中東」「アフリカ (ズールー族)」を挙げることができる。これらの地域に認められる特色は、新方針を実施する前提が整っていたことにある。それが、すでに19世紀前期にある程度は整っていた場合もある。「インド・スリランカ」がそれである。それに対して、中期に入って前提が整った場合もある。「ズールー族」がこのケースに入る。いずれにしても、地域住民による「自給・自治、自ら宣教する教会」を基本方針とすることは、そのための基盤が必要である。新方針を受け入れる基盤が整わなかったのが、「アメリカ先住民」と「中国」である。アメリカ先住民の場合、ダコタ族のケースだけを見ると、ある程度新方針が達成できている。しかし、政治的原因により脱落していく部族があまりにも多かった。全体として見ると、新方針への対応はできなかつたと見られるわけである。「中国」の場合、活動範囲は広がったが、活動内容に新方針に対応できる要素が伴わなかった。

新方針に対応できたか否かという区分は、19世紀中期の活動内容にも関わっている。すなわち、対応できた地域では中期にある程度はボードの新方針を活動の中に取り入れた。自らの教会を設立し、その運営に責任を持つキリスト教がそこでは育った。それに対し、対応できなかった地域では、ほぼ前期と同様の活動が中期にも認められる。アメリカ先住民の場合、それは教育と教会活動を中心とする宣教活動である。中国の場合、それは教育活動さえも受け入れられず、地域住民との接点を見出すのが困難なままに続けた多様な宣教活動であった。

19世紀中期に始められた3地域でもすでに活動内容に相違を見ることができ。「マイクロネシア」と「日本」では、困難を伴いながらも宣教活動に進展があった。地域住民による「自給・自治・自ら宣教する教会」活動への基盤は整いつつあった。それに対して、「カトリックの地域」では、宣教活動における進展が見られない。このような違いは、その後の宣教活動により大きな違いと

して現れてくることが予想される。

注

- 1) 塩野和夫『19世紀アメリカンボードの宣教思想Ⅰ』, 参照。
- 2) 1880年当時のアメリカンボードの宣教地域は、下記の通りである。
Zulu Mission (1835)
European Turkey Mission (1858)
Western Turkey Mission (1836)
Central Turkey Mission (1847)
Eastern Turkey Mission (1836)
Mahratta Mission (1813)
Madura Mission (1834)
Ceylon Mission (1816)
Foochow Mission (1847)
North China Mission (1854)
Japan Mission (1869)
Micronesia Mission (1852)
Western Mexico (1872)
Spain (1872)
Austria (1872)
Dakotas Mission (1835)
North Pacific Institute (1872)
“Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.”
The Missionary Herald, January 1880, p.4.
- 3) インド・スリランカにおける19世紀中期のアメリカンボード宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
Bartlett, C., *Sketches of the Missions of the American Board*, pp.15-36.
Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.165-185.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 4) “Annual Survey of the Missions of the Board,” *The Missionary Herald*, January 1852, pp.1-14.
- 5) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.
- 6) アメリカ先住民の間における19世紀中期アメリカンボードの宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
Bartlett, C., *Sketches of the Missions of the American Board*, pp.176-216.

- Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.186-195.
- 7) “Annual Survey of the Missions of the Board,” *The Missionary Herald*, January 1852, pp.1-14.
- 8) 塩野和夫「19世紀アメリカンボードの宣教思想Ⅱ(1)」『国際文化論集』第19巻第1号, 参照。
- 9) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.
- 10) 中東における19世紀中期アメリカンボードの宣教活動については、ヘラルド誌の他に、次の著作を参考にした。
Bartlett, C., *Sketches of the Missions of the American Board*, pp.71-98, 137-160.
Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.196-226.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 11) “Annual Survey of the Missions of the Board,” *The Missionary Herald*, January 1852, pp.1-14.
- 12) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.
- 13) 中国における19世紀中期のアメリカンボード宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
Bartlett, C., *Sketches of the Missions of the American Board*, pp.115-136.
Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.250-262.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 14) “Annual Survey of the Missions of the Board,” *The Missionary Herald*, January 1852, pp.1-14.
- 15) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.
- 16) アフリカにおける19世紀中期のアメリカンボード宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
Bartlett, C., *Sketches of the Missions of the American Board*, pp.161-174.
Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.279-289.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 17) “Annual Survey of the Missions of the Board,” *The Missionary Herald*, January 1852, pp.1-14.
- 18) ズールー族は1878年から79年にかけて、イギリスと戦争状態にあった。そこで、この戦争状態が落ち着いた時期にするため、1882年のヘラルド誌から統計資料を採用した。
“Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1880-1881.” *The Missionary Herald*, January 1882, p.6.

- 19) ミクロネシアにおける19世紀中期のアメリカンボード宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
- Bartlett, C., *Sketches of the Missions of the American Board*, pp.37-70.
Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.227-249.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 20) ミクロネシアの地図については、ヘラルド誌に掲載された次の地図が参考になる。
- “Mission of the A. B. C. F. M. in the Pacific Ocean,” *The Missionary Herald*, January 1872.
- 21) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.
- 22) 日本における19世紀中期のアメリカンボード宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
- Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.263-278.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 23) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.
- 24) カトリックの地域における19世紀中期のアメリカンボード宣教活動については、ヘラルド誌の他に次の著作を参考にした。
- Strong, W. E., *The Story of the American Board*, pp.290-304.
Goodsell, F. F., *You shall be my Witnesses*.
- 25) “Statistics of the Missions of the A. B. C. F. M. for the Year 1878-1879.” *The Missionary Herald*, January 1880, p.4.